

令和3年度 学校評価報告書 (自己評価書・学校関係者評価書)

令和4年2月1日作成

中期目標	重点努力目標 (評価項目)	自己評価	総合評価	達成状況と成果	関係者評価	学校関係者の意見・要望	今後の改善方策 次年度への課題 (★学校関係者評価を受けて)	
① 学び方改革 (学び方問題解決的な学習の実践)	自ら学ぶ	「問い」が生まれ、「問い」に興味や関心をもって、自ら考えることができる生徒を育てる。	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で様々な制限がある中で、できる事を工夫して学習していた。タブレットを調べ学習に利用するなど IT スキルを向上させてほしい。 ・教師は授業力が一番大事。研究指定をよい学びの機会にしているのがよくわかる。教師も学ぶ生徒も幸せ。 ・リモート授業、AI 活用授業が増え、心のもった人とのつながりが希薄化するのが心配。 	<ul style="list-style-type: none"> ・乗年の発表に向け、3か年の研究の成果をまとめていく。今後は「学びを生活にどう生かしていくのか」、生きた教育の研究を深めていきたい。 ・コロナ禍における学習形態を常に見直し、安心して学習できる環境を整えていく。 ・タブレットの使用方法を工夫し、能率よく、個々の学習が深まるように活用していく。
	共に学ぶ	「一人調べ」や「関わり合い活動」を通して、互いに学び合うことができる授業を実践する。	A					
	学びを深める	「問い」を追究し、学びを深める中で、「新たな発想」を創り出すことができる授業を展開する。	A					
② 校 みんなが参加し、みんなで輝くことができる学校	自ら気づく～一隅を照らす	・それぞれのポジションで自分の役割を精一杯果たすことができる生徒を育てる。 ・感性を磨き、正しい心、善き心、美しい心(真善美)に気づける生徒を育てる。	A	B	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントが延期や中止となる中、諦める事なく臨機応変に対応している。将来逆境にあったとき、基礎になるものを得る経験をしている。 ・「生徒の手による学校づくり」がすすめられている。行事の企画や二川南小への訪問など、一人一人が目標をもって取り組んでいる。学校の活気を生み出し生徒がそれを感じている。歯車がかみ合っている。 ・持続可能な社会を創り出す活動については、地域の特性をいかしたものの、梅田川などの活動を積極的にやる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中で、生徒が活気ある活動ができるように生徒の主体的な活動を増やし、よりよい活動を充実していく。また、保護者の方に生徒の様子を見ていただく機会が減っているので、学校での取り組みを伝える方法を工夫し、家族と協働して生徒を育てていきたい。 ・生徒アンケートで自己評価の低かった「自分の将来や生き方について考える」を改善するため、話し合い活動や講演会の取り組みを広げていく。
	共に高め合う～ワンチーム	・生徒が考え、生徒が主体となり、みんなが楽しく参加することのできる活動を推進する。 ・地域に学び、地域と共に成長する生徒を育てる。	B					
	みんなで輝く～夢は自分を変える原動力	・みんなで協力し、助け合いながら、持続可能な社会を創り出すことのできる活動を推進する。 ・志をもち、自分の夢の実現に向けて挑戦することができる生徒を育てる。	B					
③ 過ごすことができる学校	不登校ゼロ	・教室を「安心・安全な場」にして、「ありのままの自分」を認め合うことのできる文化を築く。	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校に行きたくても行けない子がなくなる。安心して登校できる雰囲気作りをみんなでできるよう期待している。 ・思春期といった難しい年代の生徒一人一人を大事にしている。自分探し・自分の将来探しなど、個を大事にしているのがわかる。 ・特別支援学級の充実が良い。農協等の外部講師の取り組み以外にも更に取り組むと良い。 ・高齢者との対話の場、育児体験の場等の体験学習の機会をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業が楽しいから学校に行きたいと思えるよう、授業や行事の改善を図る。生徒の多様性に対応する、どのような生徒が活躍できるかを想定するなど、一人一人に目を向けた立案を行う。 ・「思いやり」や「感謝の心」を、言葉や行動で示すことのできる生徒を育成する。 ・不登校生徒については、「その子のために」最もよい環境を整えられるよう保護者と協力連携する。
	～一人一人を大切に	・「困難を抱えている子」の問題のありかを知り、「適切な支援」をする。						
	いじめゼロ	・「人を思いやる心」と「感謝の気持ち」を大切にし、利他に動ける優しい心を育てる。						
④ 言行一致と率先垂範の励行	授業力の向上～共に考え、共に学ぶ	・「愛情」と「誠実さ」で生徒と向き合う。 ・教師が火種となり、生徒の心に火をつける。	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・市教育委員会から委嘱を受け、学習指導の研究に取り組んでいる。研修と実践を繰り返して、全教師の人間力と授業力が高まった。 ・若手、中堅、ベテランそれぞれが持ち味を生かし、協力分担して各活動に取り組んでいる。 ・コロナ禍で実践できるように、知恵を出し合った。 ・在校時間を意識して、能率よく効果的に職務を遂行することができた。また、在校時間の設定を行い(21時までには帰宅する)、お互いに声をかけながら、在校時間の縮減に努め、働き方改革をすすめた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方がプライベートの時間がとれているのが心配。月 1,2 回でいいので、家族サービスを。 ・教師が率先垂範する姿を見せようといった学校全体の取り組みが素晴らしい。教師がよい教育環境に成り込んでいる。教師も生徒と一緒に成長していくことができる。 ・制限がある中で試行錯誤が見られました。部活動の外部コーチ等で指導の拡充を望みます。 ・先生自らの余裕がなければ他人の子どもの教育はできません。先生個々の家庭の充実こそ率先垂範である。
	人間力の向上～謙譲の精神で、徳を磨く	・言行一致。柔軟な思考で果敢な行動力をもつ。 ・率先垂範。「時を守り 場を清め 礼を正す」を励行し、学校と心をもっときれいにする。 ・部活動運営を見直し、顧問の負担を軽減する。	A					